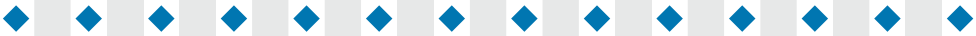


# Endeavor

LX7500



ユーザーズマニュアル




## ご使用前に


ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

## 安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



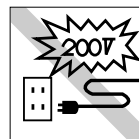
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



電源は、交流 100V 以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



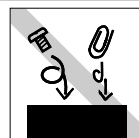
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

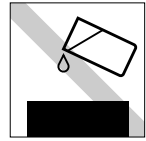
感電・火災の原因となります。



## 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。  
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、カスタマーサービスセンター  
にご相談ください。

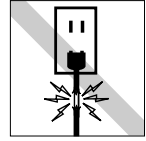


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・発熱器具の近くに配線しない。

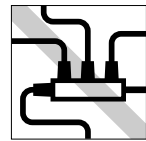
電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。

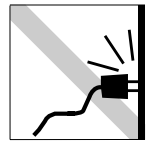


電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。

電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃して  
ください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

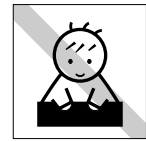
感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくださ  
い。

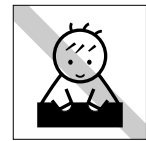
飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



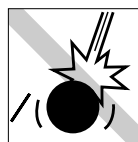
小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置  
しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



## 警告

マウスボールは、絶対に投げないでください。  
マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

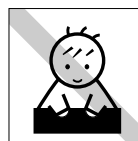


雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。  
感電の原因となります。

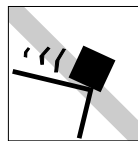


## 注意

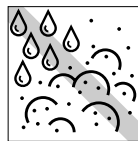
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



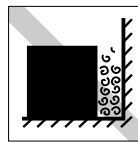
不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



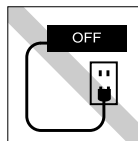
湿気やほこりの多い場所に置かないでください。  
感電・火災の危険があります。



本製品の通風孔をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。  
設置する際は、次の点を守ってください。  
・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。  
・じゅうたんや布団の上には設置しない。  
・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。  
配線を誤ると、火災の危険があります。



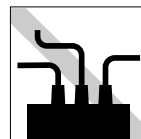
## ⚠ 注意

拡張ボードやメモリの交換・増設などは本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。

火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本製品の内部が十分冷めてから行ってください。

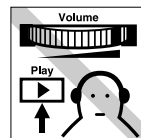


本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



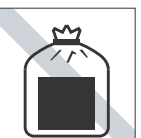
長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



5.25型ドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



本製品を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。本製品には重金属(鉛はんだなど)が使用されています。



# 目次

---

マニュアル中の表記について	8
製品保護上の注意	10
使用・保管時の注意.....	10
記録メディア.....	11
マウス.....	12

---

## 使い始めるまでの準備

---

ご使用前に	14
ご使用前の確認事項.....	14
システムの特長.....	16
各部の名称と働き	17
本体前面.....	17
本体背面.....	18

---

コンピュータの設置	19
-----------	----

---

## システムの拡張

---

拡張できる装置	28
作業時の注意	29
拡張時の準備作業	30
本体カバーの取り外し・取り付け.....	30
DIMMの増設	33
DIMMの仕様.....	33
DIMM装着時の制限.....	34
DIMMの取り付け・取り外し.....	35

---

---

拡張ボードの装着	39
拡張スロットの仕様.....	39
拡張ボードの取り付け・取り外し.....	41

---

ドライブベイへのドライブ装着	44
5.25型ドライブベイへの装着.....	44
HDDベイへの装着.....	51

---

IDE装置の装着	55
IDEコネクタ.....	55
ドライブ装置の接続例.....	57

---

## BIOSの設定

---

BIOSの設定を始める前に	62
BIOS Setupユーティリティの操作	63
BIOS Setupユーティリティの起動...63	
BIOS Setupユーティリティの操作...64	
設定値をもとに戻すには.....66	
BIOS Setupユーティリティの終了...67	

---

BIOS Setupユーティリティの設定項目	69
Mainメニュー画面.....	69
Advancedメニュー画面.....	72
Powerメニュー画面.....	74
Bootメニュー画面.....	75
Passwordの設定.....	77
Exitメニュー画面.....	80
BIOSの設定値.....	80

---

---

## 付 録

---

お手入れ	84
本機のお手入れ.....	84
マウスのお手入れ.....	84
リチウム電池の交換	86
CMOS RAMの初期化	89
コンピュータ内部のケーブル接続	91
警告メッセージが表示されたら	93
機能仕様一覧	94

# マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

## 安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 一般情報に関する記号



制限事項です。  
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。  
覚えておくと便利なことを記載しています。



説明文が次ページに続くことを示します。







参照ページを示します。

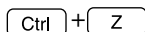




操作手順です。  
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。



十の前のキーを押したまま十の後のキーを押します。  
この例では、 を押したまま  を押します。



## 名称の表記

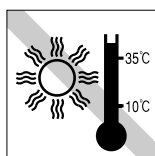
本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称を次のように略して表記します。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ

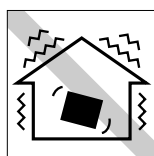
# 製品保護上の注意

## 使用・保管時の注意

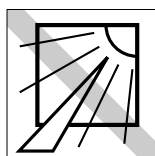
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



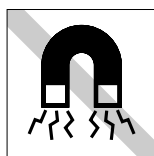
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



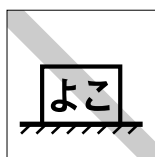
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



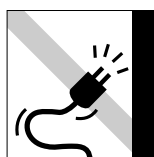
直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



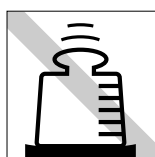
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピュータ本体を横置きにしないでください。故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用に設計されています。



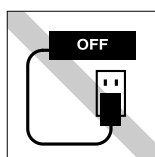
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



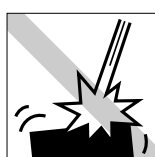
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤をしたらない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。電源を切っても、コンピュータ内部に微小な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



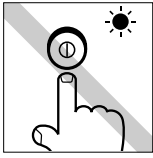
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器(HDD、CD-ROMドライブなど)も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、FD、CD-ROMなどは取り出してください。



アクセスランプが点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。

## ▶ 記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

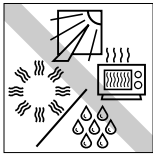
● FD

**FD**

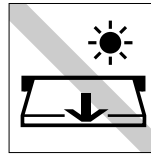
● CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

**CD**

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



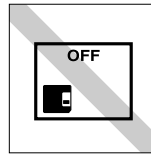
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



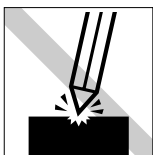
アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットをしないでください。



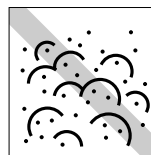
上に物を載せないでください。



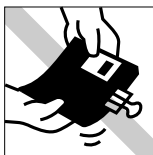
使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



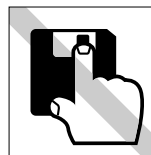
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

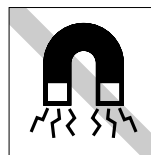


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

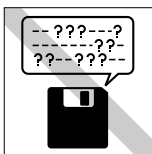
**FD**



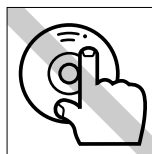
磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD**



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。**FD**



何度も読み書きしたFDは使わないでください。  
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。**FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。  
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**



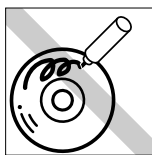
レコードのように回転させて拭かないでください。  
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**



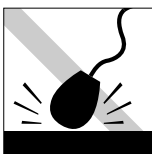
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。**CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。**CD**

## ▶ マウス

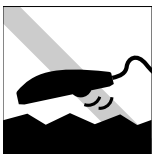
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



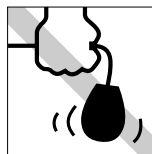
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



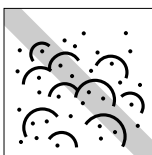
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

# 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法などについて説明  
します。

# ご使用前に

## ▶ ご使用前の確認事項

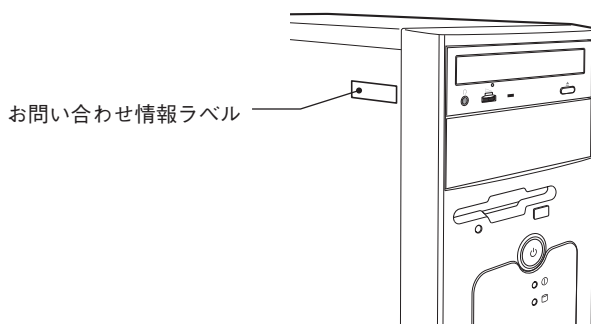
### 貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

#### ● お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。



## システム構成の確認

本書では特に記載がない限り、下記システム構成を前提として説明を行っています。購入されたシステム構成が下記と異なる場合、それらの使用方法などは各装置に添付のマニュアルを参照してください。

DIMM(メモリ)	:1セット(2本)
HDD	:1基(IDE)
5.25型ドライブ装置	:CD-ROMドライブ1基
ディスプレイ機能	:メインボード上の機能を使用
サウンド機能	:メインボード上の機能を使用
ネットワーク機能	:メインボード上の機能を使用
FAXモデム機能	:なし
キーボード	:日本語対応109キーボード
マウス	:ホイール付きPS/2マウス

上記に記載のない部分は、システム構成に変更があっても本書の記載内容が変わらない部分です。

システム構成の詳細は、p.94「機能仕様一覧」をご覧ください。

## ▶ システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



**CPU性能**  
インテルPentium 4プロセッサまたは  
インテルCeleron Dプロセッサを搭載  
しています。

**メモリ容量**  
DIMM を増設して最大  
3GB (512 × 2 + 1024 × 2)  
まで増設が可能です。

**拡張スロット**  
AGPスロット×1  
PCIスロット×3  
を装備しています。

**画面表示機能**  
AGP対応のディスプレイ  
機能を搭載しています。

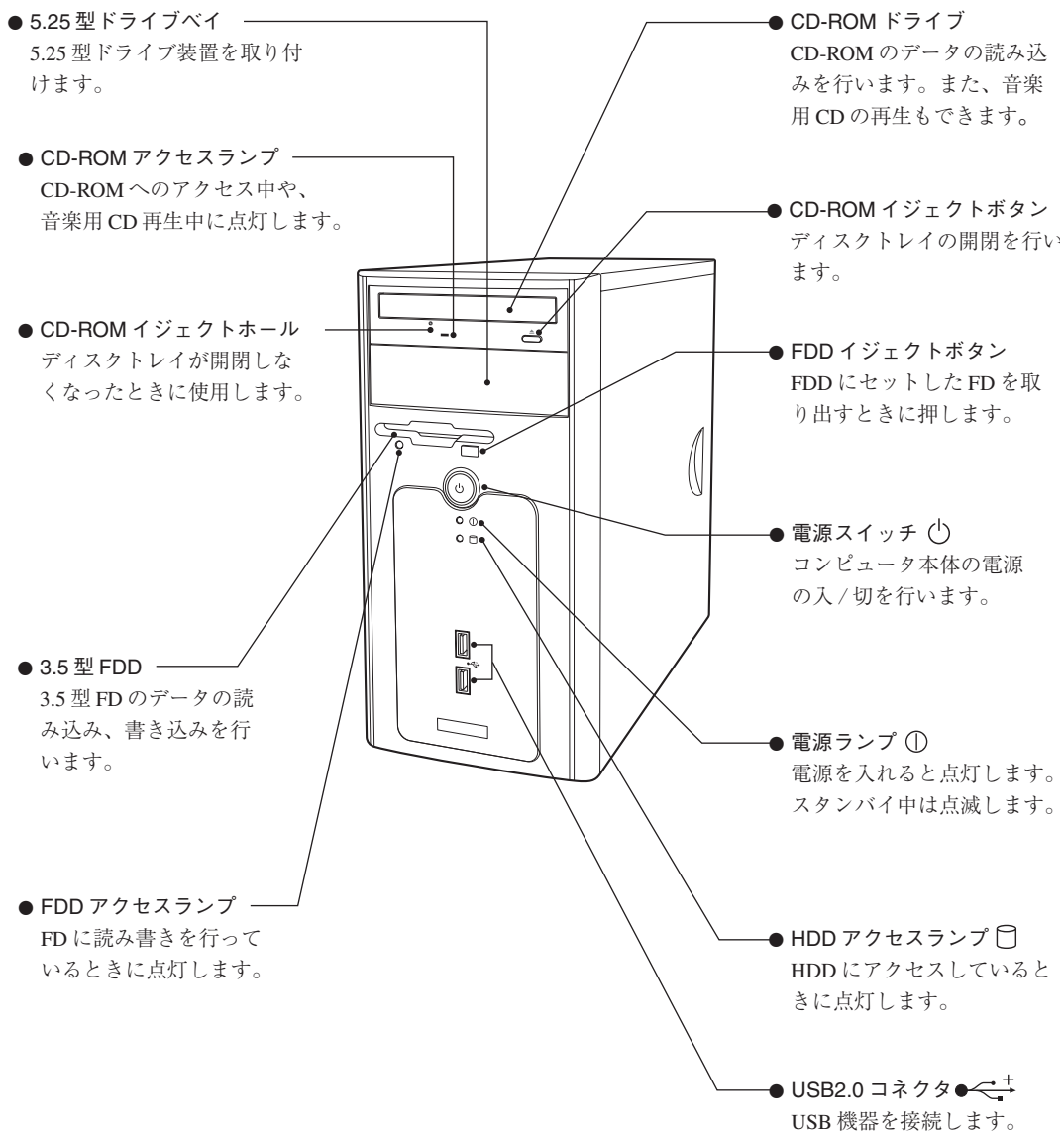
**その他**  
USB2.0に対応したUSBコネクタを装  
備しています。

**サウンド機能**  
AC '97 CODECコントローラを  
搭載しています。

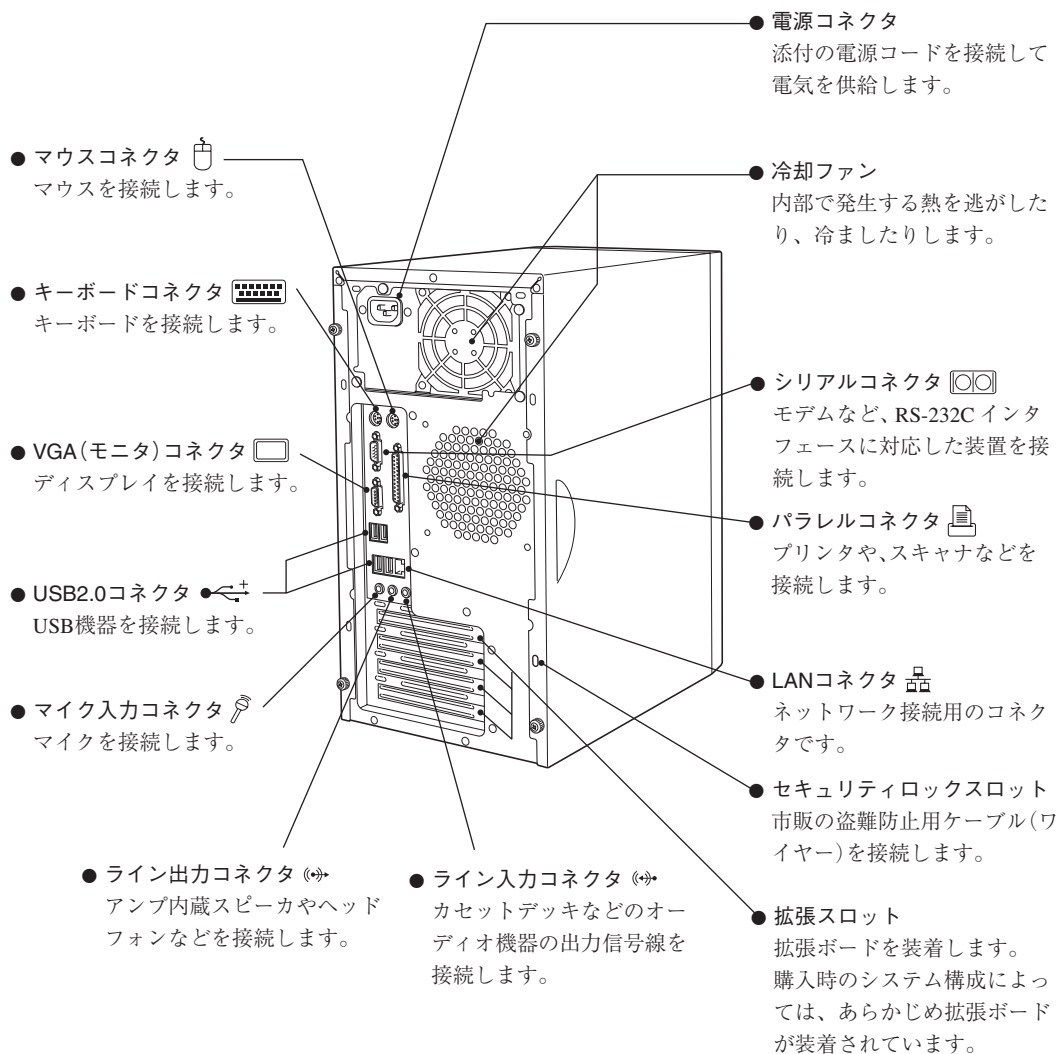


# 各部の名称と働き

## ▶ 本体前面

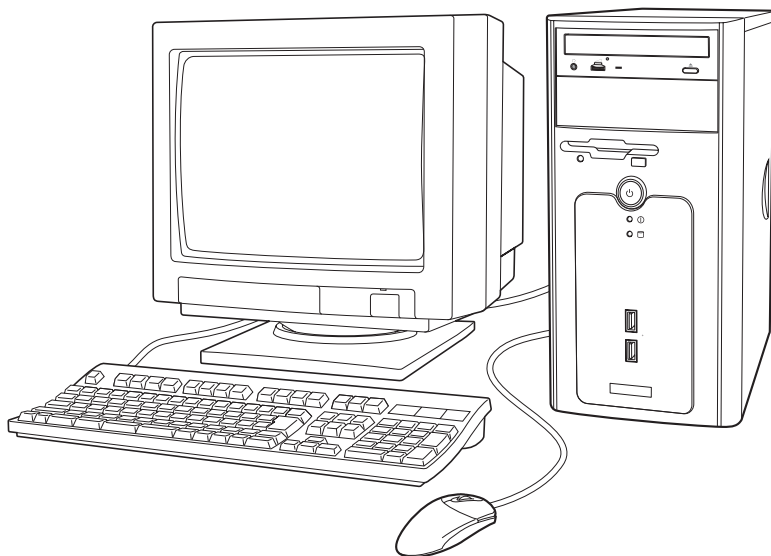


## ▶ 本体背面



# コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。



## 設置における注意



注意

- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上に設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.10「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

## 各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



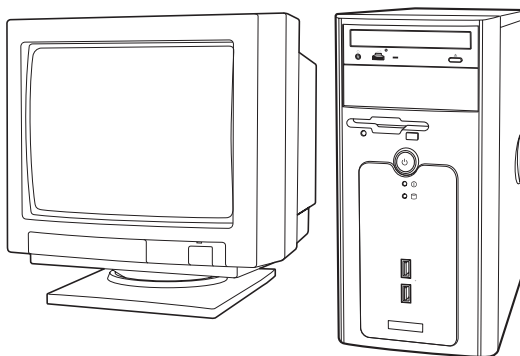
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしてください。配線を誤ると、火災の危険があります。

## 設置

1

コンピュータの設置場所(丈夫で水平な机の上など)を決めて設置します。

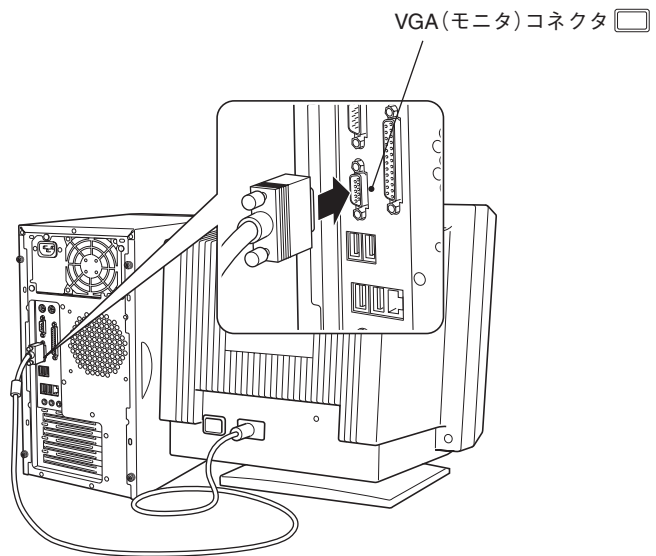
本機は横置きにできません。必ず縦置きに設置してお使いください。



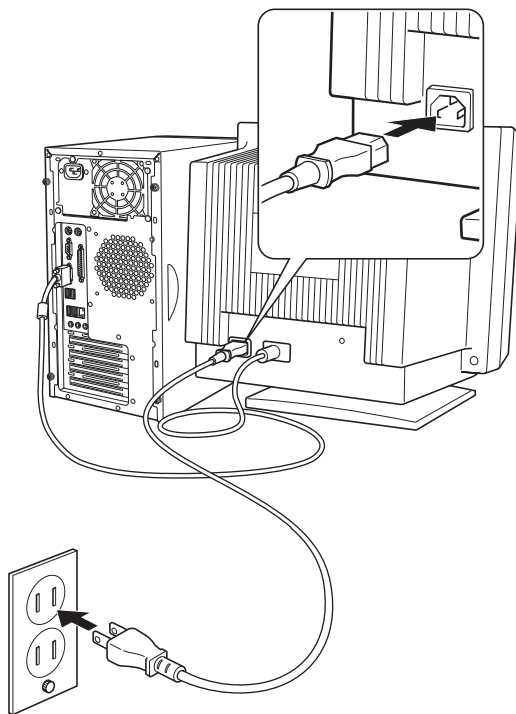
## ディスプレイの接続

ここでは、一般的なディスプレイの接続方法を説明します。ディスプレイの取り扱い上の注意や詳しい使用方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- 2** ディスプレイの接続コードを、本機背面のVGA(モニタ)コネクタ(青色)に接続します。

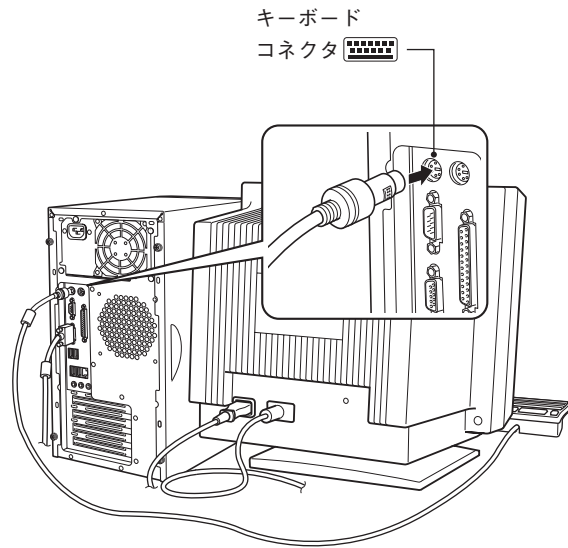


- 3** ディスプレイの電源コードを、ディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



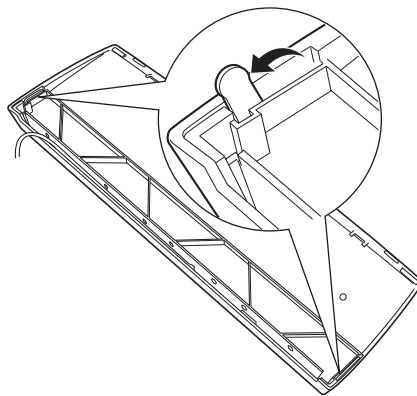
## キーボードの接続

- 4** キーボードのコネクタを、本機のキーボードコネクタ（紫色）に差し込みます。



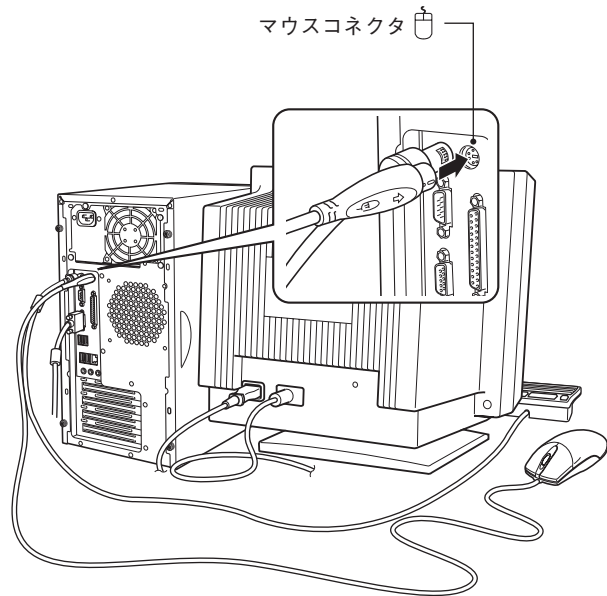
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは、両端の脚を起こします。
- キーボードコードの長さを調整します。



## マウスの接続

- 5** マウスケーブルのコネクタを、本機のマウスコネクタ（緑色）に差し込みます。

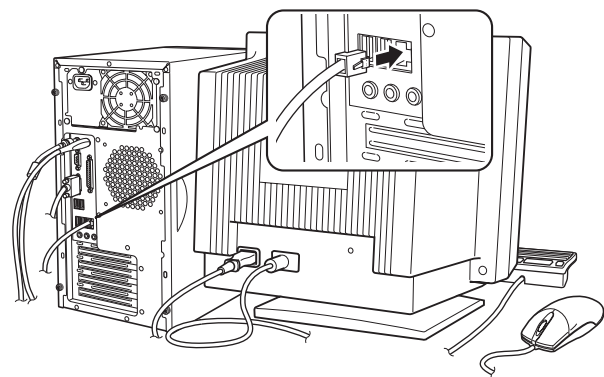


## ネットワークへの接続

- 6** ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルをLANコネクタに接続します。

ネットワークボード使用時は、ネットワークボード上のLANコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。

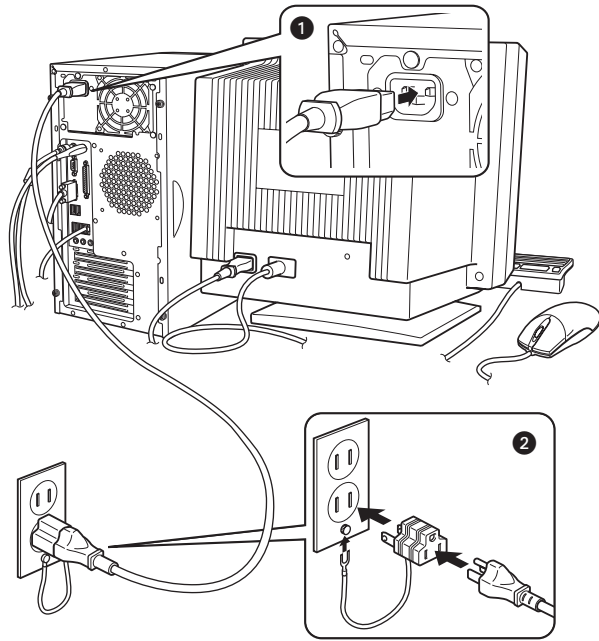




## 電源コードの接続

### 7 電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本体の電源コネクタに接続します。
- ② 添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに接続します。  
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



これでコンピュータの設置は終了です。



# システムの拡張


コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

# 拡張できる装置

本機には、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。

## 5.25型ドライブベイ

5.25型の装置(CD-ROMドライブなど)やマウントフレームを取り付けたMOドライブなどを2基まで装着することができます。

 p.44 「5.25型ドライブベイへの装着」


## DIMMソケット

DIMMソケットが2組4本用意されています。内蔵メモリを3GBまで拡張することができます。

 p.33 「DIMMの増設」

## 拡張スロット

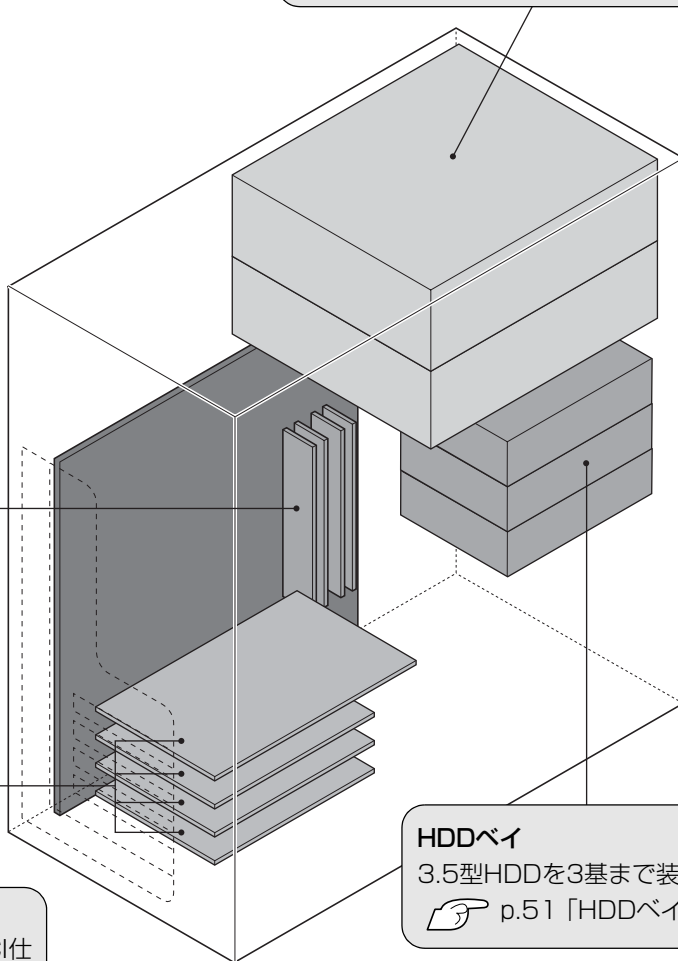
AGP仕様の拡張ボードを1枚、PCI仕様の拡張ボードを3枚まで装着できます。

 p.41 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

## HDDベイ

3.5型HDDを3基まで装着できます。

 p.51 「HDDベイへの装着」



# 作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- DIMM やドライブ装置の増設・交換、拡張ボードの装着などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本製品の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

- 取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。
- コンピュータ内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから、作業を行ってください。
- DIMM、拡張ボードの端子部やコネクタ部に触れないでください。

# 拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、下記の作業を必要に応じて行ってください。



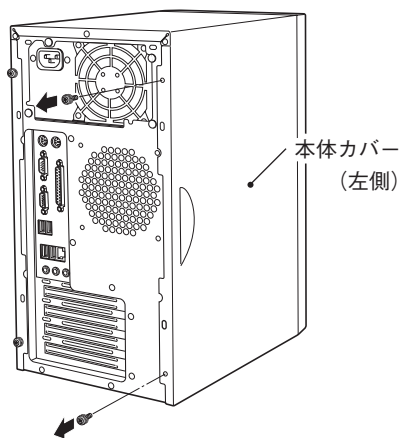
- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

## ▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。ここでは左側の本体カバーを取り外す手順を説明しています。右側のカバーを取り外す場合も同様の手順で行ってください。

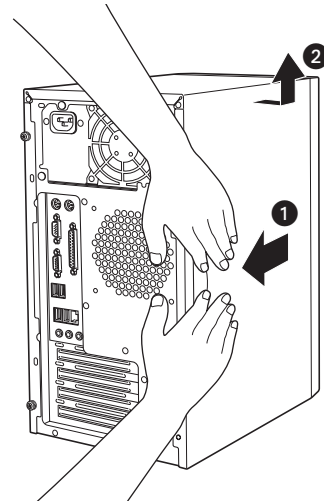
### 取り外し

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。  
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体左背面のネジ(2本)を外します。



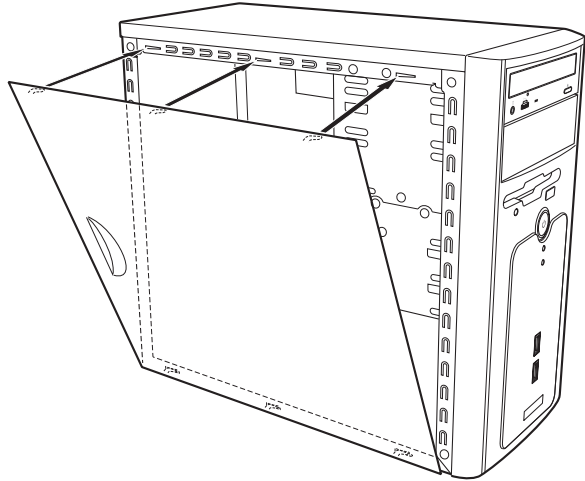
## 4 本体カバー(左側)を取り外します。

- ① 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- ② 本体カバーを上を引き上げます。

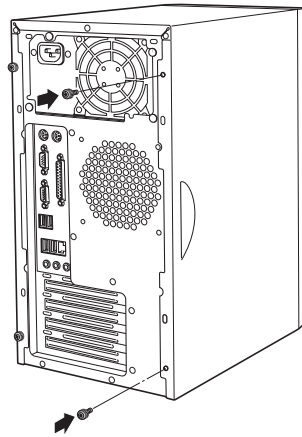


## 取り付け

- 1 本体カバーの突起を本体側面の穴に合わせます。  
下側の突起(3個)を合わせてから上側の突起(3個)を合わせます。



- 2 本体カバーを前面側にスライドさせます。
- 3 ネジ(2本)で本体カバーを固定します。





# DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

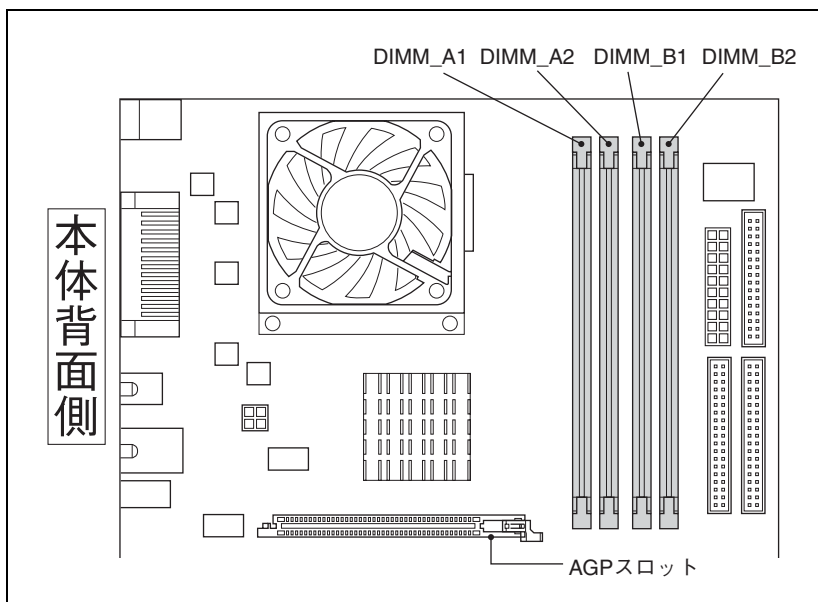
## DIMMの仕様

本機には、2組4本のDIMMソケットが用意されています。DIMMを2枚単位で装着して、最大3GB(512MB×2+1024MB×2)まで拡張できます。

本機は、同一容量のメモリを2枚1組で使用することにより、高速なメモリ転送速度を実現しています。

DIMMは、DIMM\_A1、DIMM\_B1ソケットから取り付けます。購入時は、DIMM\_A1およびDIMM\_B1ソケットにはあらかじめDIMMが取り付けられています(購入時の仕様により異なります)。

メインボード上のDIMMソケットの位置は、次のとおりです。



DIMMを増設する場合は、下記仕様と一致するDIMMを、弊社のオプション一覧より選択してください。

- ・ PC3200 DIMM(DDR400 SDRAM使用、184ピン)
- ・ メモリ容量 128MB、256MB、512MB、1024MB
- ・ Non ECC

\* 今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。  
最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。ホームページのアドレスは『サポートサービスのご案内』をご覧ください。



インテルCeleron Dプロセッサでの動作はDDR333(PC2700)になります。

## ▶ DIMM装着時の制限

本機のDIMMソケットにDIMMを装着する場合、次のような制限があります。

- 必ず、同一容量のDIMMを2枚1組で装着してください。  
なお、DIMMを4枚装着する場合、2組のDIMMソケットに装着するDIMMは、1組目と2組目の容量が異なっても問題ありません。
- DIMMを装着する順番とDIMMソケットの組み合わせは、次のとおりです。



DIMM装着順	DIMMソケット
1	DIMM_A1ソケット+DIMM_B1ソケット
2	DIMM_A2ソケット+DIMM_B2ソケット

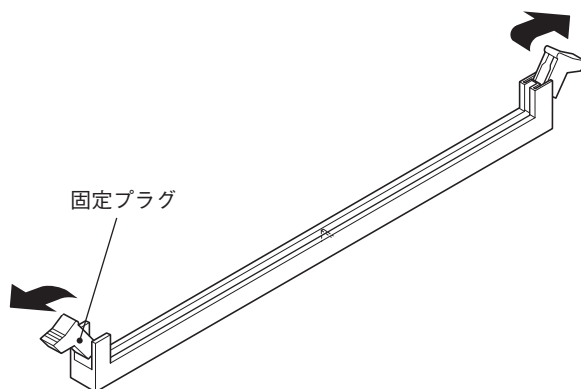
## ▶ DIMMの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.29「作業時の注意」を必ずお読みください。

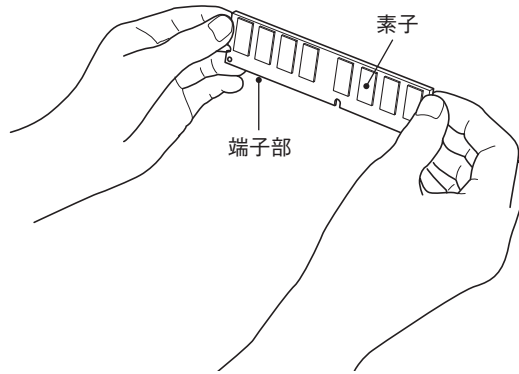
DIMMの取り付け作業をする場合は、コンピュータを横置きにしてください。

### 取り付け

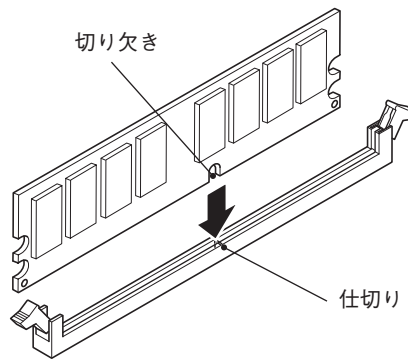
- 1** コンピュータの電源を切ります。  
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3** 本体カバーを外します。  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** AGPスロットに拡張ボードが装着されている場合は、拡張ボードを外します。  
 p.41「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 5** DIMMソケットの固定プラグを開きます。



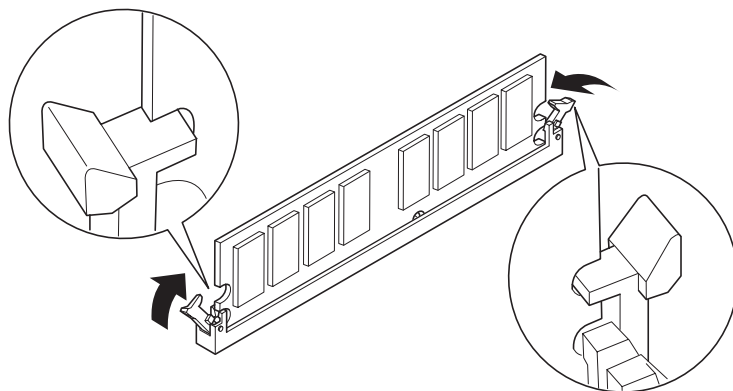
- 6** DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。



- 7** DIMMソケットにDIMMを差し込みます。  
① DIMMの切り欠きをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。




- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。  
必ず、DIMMが固定されたことを確認してください。




本機ではDIMMを2枚単位で取り付けるため、該当するDIMMソケット(2本)に対してそれぞれ作業を行ってください。

 p.34「DIMM装着時の制限」

**8** 手順4で拡張ボードを外した場合は、もとどおりに装着します。

 p.41「拡張ボードの取り付け・取り外し」


**9** 本体カバーを取り付けます。

 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

**10** コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

**11** メモリ容量を確認します。

- ① コンピュータを起動します。**[Delete]** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.64「BIOS Setupユーティリティの操作」

- ② 「Main」メニュー画面の「System Information」-「System Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。

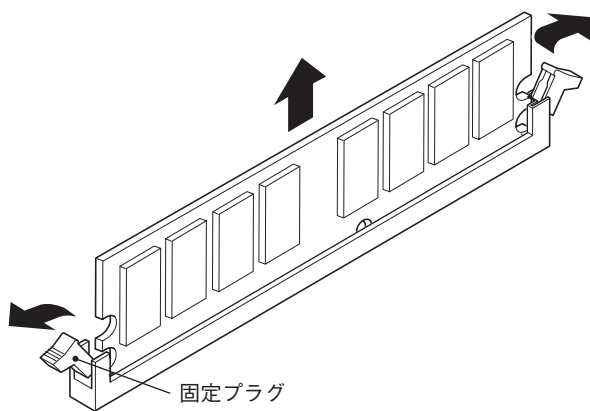
本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されます。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

## 取り外し

DIMMを取り外す場合は、該当するDIMMソケット2本に対してそれぞれ作業を行ってください。

**1** DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。



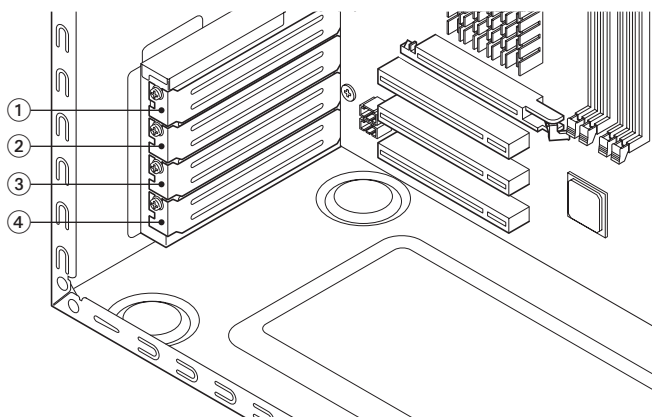
**2** DIMMが外れたら静かに取り外します。  
静電気防止袋に入れて保管してください。

# 拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードを取り付ける方法について説明します。

## ▶ 拡張スロットの仕様

本機には4つの拡張スロットがあり、各スロットの仕様は次のとおりです。



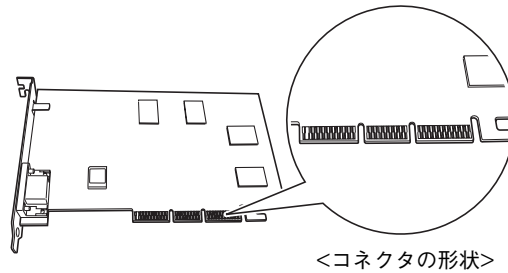
スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ**
①	AGP*	ボード長312mmまで
②	PCI	ボード長312mmまで
③	PCI	ボード長312mmまで
④	PCI	ボード長312mmまで

\* AGP2.0(1.5V仕様)およびAGP3.0(0.8V仕様)対応ボードのみ装着可能

\*\*装着可能なサイズでもボードの形状により、装着できない場合があります。

## AGPコネクタの仕様

本機のAGPコネクタには、AGP2.0(1.5V仕様)およびAGP3.0(0.8V仕様)対応ボードのみ装着可能です。仕様の異なるAGPボードは、コネクタの形状が異なるため装着することができません。本機に装着可能なAGPボードは、次のようなコネクタの形状をしています。





## ▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し




- 拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

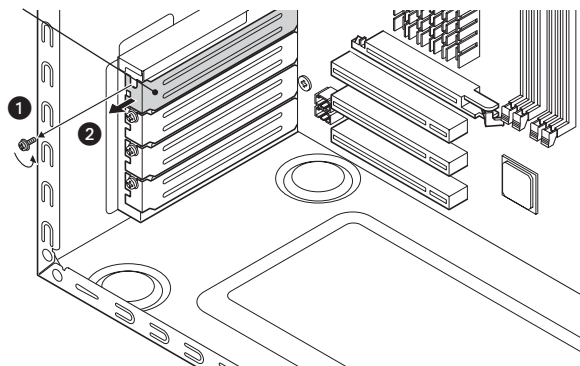
作業を始める前にp.29「作業時の注意」と「拡張ボードに添付のマニュアル」を必ずお読みください。

### 取り付け

作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1** コンピュータの電源を切ります。  
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3** 本体カバーを外します。  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
  - ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
  - ② スロットカバーを手前に引き抜きます。

スロットカバー



外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にはほこりなどが入らないように再び装着してください。



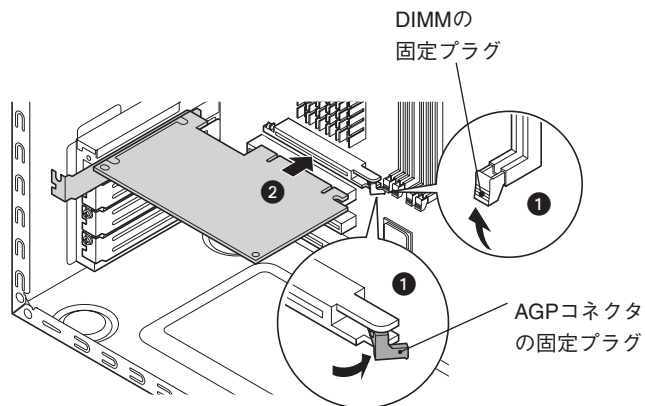
# 5

拡張ボードを差し込みます。

## AGPボードの場合

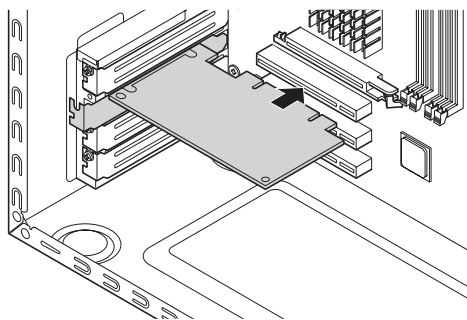
- ①AGP コネクタの固定プラグを倒します。また、DIMMの固定プラグが倒れている場合は、起こします。
- ②AGPボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。

しっかり固定されると固定プラグが起き上がり「カチッ」と音がします。

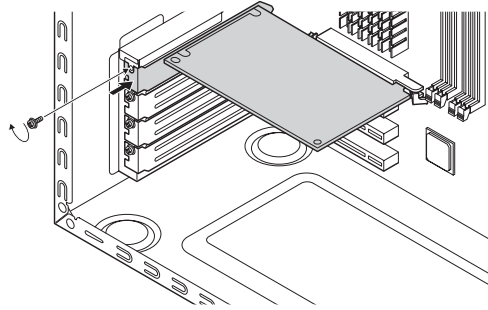


## PCIボードの場合

PCIボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。




**6** 拡張ボードをネジで固定します。



サウンドボードなど、拡張ボードによっては、コンピュータ内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで確認してください。

**7** 本体カバーを取り付けます。

 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

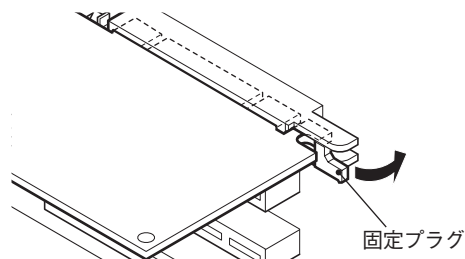
**8** コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

**1** 拡張ボードを固定しているネジを外します。

**2** 拡張ボードを引き抜きます。

AGPボードを取り外す場合は、AGPボードを固定している固定プラグを倒してから引き抜きます。



< AGP ボードの場合 >

**3** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

# ドライブベイへのドライブ装着





3.5型ドライブベイのドライブ装置(FDD)は交換できません。3.5型のMOドライブを増設する場合は、5.25型マウントフレームに取り付け、5.25型ドライブベイに装着します。

## ▶ 5.25型ドライブベイへの装着

作業を始める前にp.29「作業時の注意」を必ずお読みください。  
作業はコンピュータを横置きにして行ってもかまいません。

### 取り付け

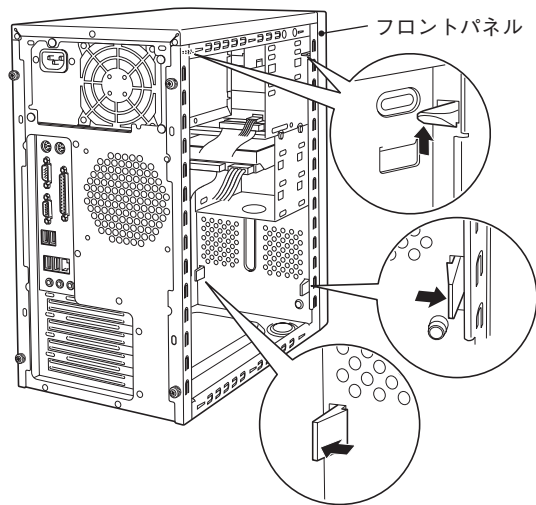
ここでは2台目の5.25型ドライブを増設する手順を説明します。

- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチの設定などを行います。  
 p.55「IDE装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。  
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバー(左右両側)を取り外します。  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

## 5 フロントパネルを取り外します。

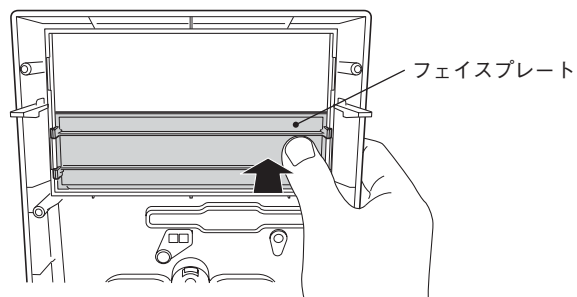
上、下2個づつあるフックを矢印の方向に押し外します。

すでに装着されている装置を交換する場合は手順5～7は必要ありません。



## 6 フェイスプレートを取り外します。

フロントパネルの裏側から、フェイスプレートの片側を押し出します。

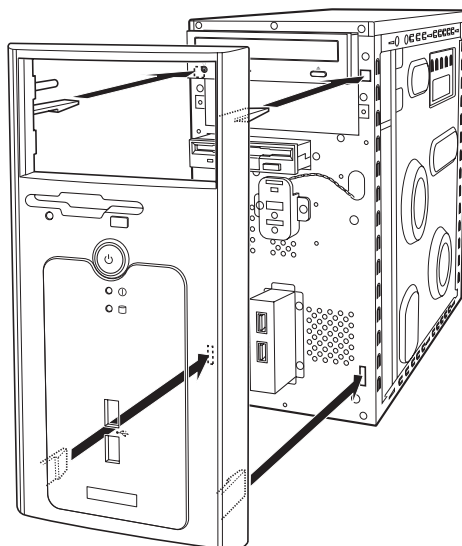


外したフェイスプレートは大切に保管してください。

7

フロントパネルを取り付けます。

フロントパネルのフックを本体の穴に合わせて押し込みます。

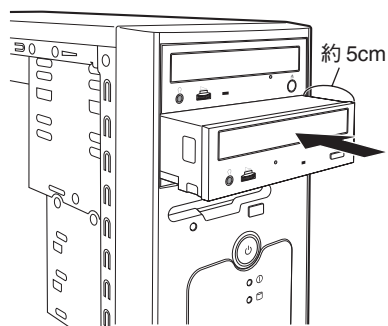


8


ドライブベイにドライブ装置を取り付けます。

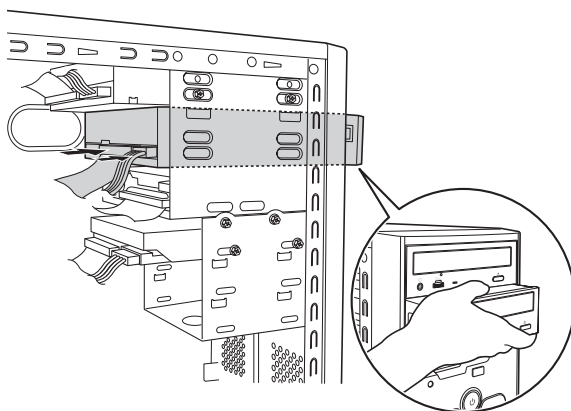
① ドライブ装置を前面から押しこみます。

このとき、ドライブを前面側に5cm程出しておきます。

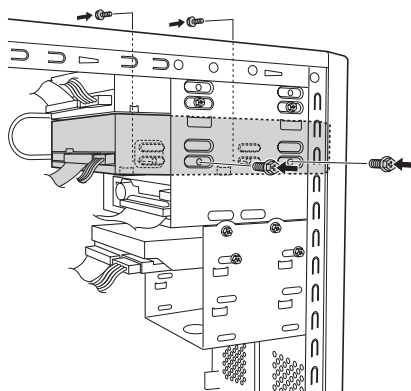


- ② 右手でドライブ装置を固定して、装置にケーブル類を接続します。  
すでに装着されているドライブ装置が作業の妨げになる場合は、そのドライブ装置のネジ(左右各2本)を外し、前面側に移動させて空間を作ります。


 p.57「ドライブ装置の接続例」



- ③ ドライブ装置を押し込み、ネジ穴を合わせてネジ(左右各2本)で固定します。  
手順②で、すでに装着されているドライブ装置を前面側に移動させた場合は元の位置に戻し、ネジ(左右各2本)で固定します。




- 9 本体カバーを取り付けます。

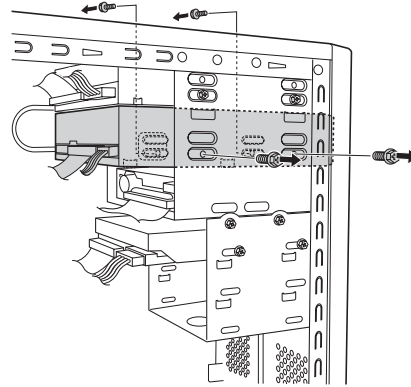
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

## 取り外し

ここでは2台目の5.25型ドライブを取り外す手順を説明します。

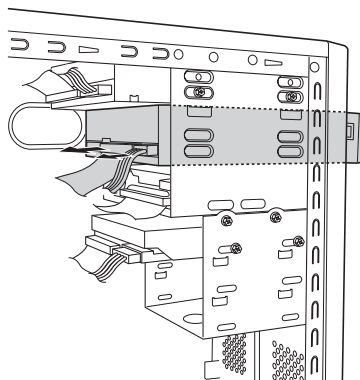
- 1 **コンピュータの電源を切ります。**  
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 **コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。**
- 3 **本体カバー(左右両側)を取り外します。**  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 **ドライブベイからドライブ装置を取り外します。**
  - ① **ドライブ装置を固定しているネジ(左右各2本)を外します。**



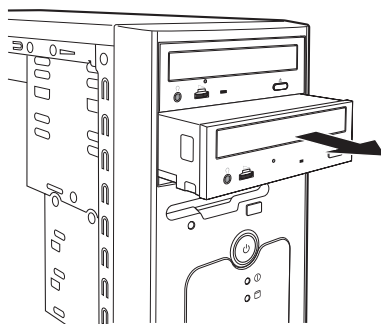


- ② ドライブ装置を前面側に5cm程移動させます。
- ③ 右手でドライブ装置を固定し、ケーブル類を外します。

1台目のドライブ装置が作業の妨げになる場合は、1台目のドライブ装置を固定しているネジ(左右各2本)を外して、前面に移動させ空間を作ります。



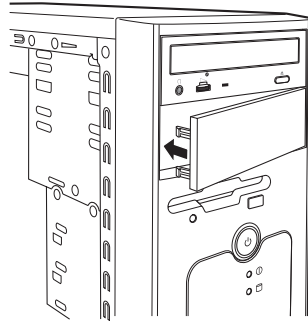
- ④ ドライブ装置を前面側から引き抜きます。



5


前面側からフェイスプレートを押し込んで、取り付けます。

装置を取り外したドライブベイにほかの装置を取りつける場合はこの作業は必要ありません。



6

本体カバーを取り付けます。

 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

7

コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

## HDDベイへの装着



---

作業を始める前にp.29「作業時の注意」を必ずお読みください。

### 取り付け

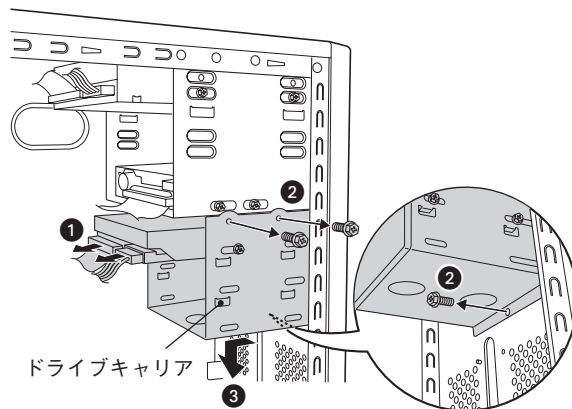
ここでは、2台目のHDDを増設する手順を説明します。

作業はコンピュータを横置きにして行ってもかまいません。

- 1** あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチやディップスイッチの設定などを行います。  
 p.55「IDE装置の装着」
- 2** コンピュータの電源を切ります。  
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3** コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4** 本体カバー(左側)を取り外します。  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

## 5 ドライブキャリアを本体から取り外します。

- ① HDDのケーブル類を外します。
- ② コンピュータ本体とドライブキャリアを固定しているネジ(3本)を外します。
- ③ ドライブキャリアを矢印のとおりはずらして取り外します。



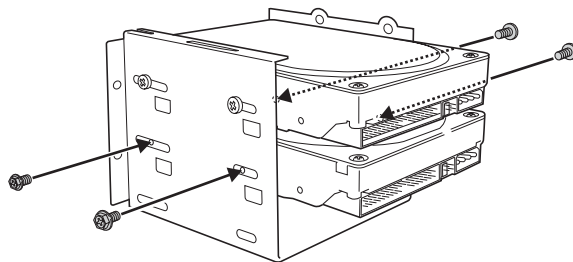
## 6 ドライブキャリアにHDDを取り付けます。

- ① 装着されているHDDと同じ向きに合わせ、ドライブキャリアに差し込みます。

ドライブキャリアにHDDがうまく挿入できない場合はすでに装着されているHDDの片側のネジをゆるめてください。

- ② ドライブキャリアとHDDのネジ穴を合わせて、ネジ(4本)で固定します。

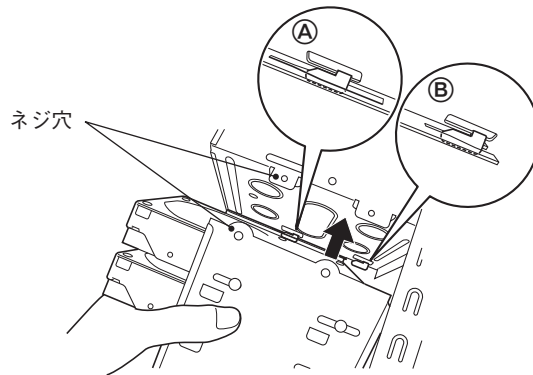
すでに装着されているHDDのネジをゆるめた場合は忘れずにネジを締めてください。




# 7

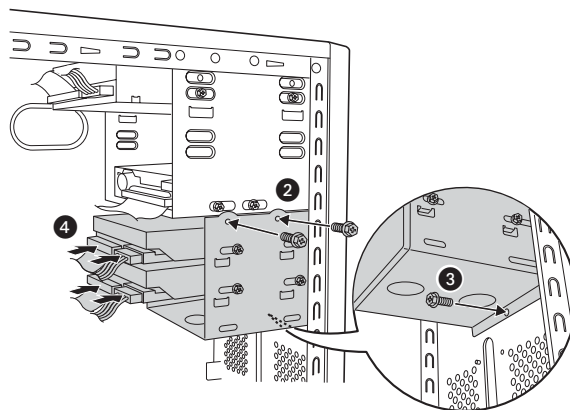
ドライブキャリアを本体に取り付けます。

- ① ドライブキャリアをAとBのツメに合わせ、ドライブキャリアのネジ穴を本体のネジ穴に被せるように起こします。




- ② ドライブキャリアを前面側にスライドします。
- ③ ドライブキャリアと本体のネジ穴を合わせてネジ(3本)で固定します。
- ④ HDDにケーブル類を接続します。

 p.57「ドライブ装置の接続例」



# 8

本体カバーを取り付けます。

 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

# 9

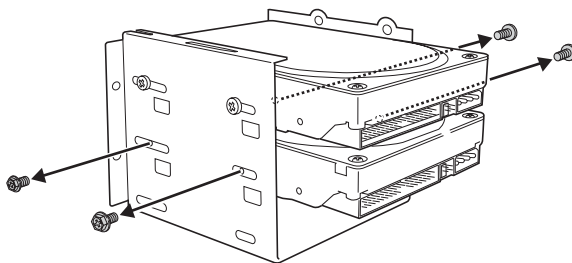
コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

## 取り外し

ドライブキャリアの取り外し方・取り付け方については、前項「HDDベイへの装着」の手順を参照してください。

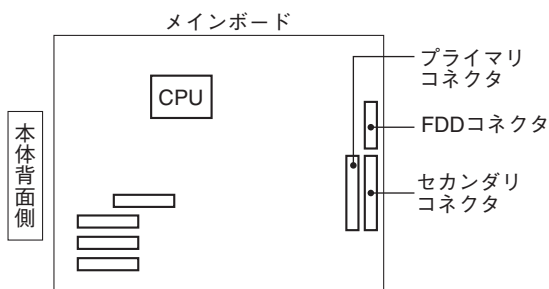
**ドライブキャリアからHDDを取り外します。**

ドライブキャリアとHDDを固定しているネジ(4本)を外し、ドライブキャリアからHDDを外します。



# IDE装置の装着

本章では、IDEコネクタの仕様とドライブ装置の接続方法について説明します。本機のメインボード上には、IDEコネクタが2個搭載され、IDE仕様のドライブ装置を取り付けることができます。コネクタの位置は、次のとおりです。



## ▶ IDEコネクタ

本機のIDEコネクタには、HDDやCD-ROMドライブなどのドライブ装置を合計4基接続できます。4基の装置には優先順位を設定します。順位の設定を誤ると、装置がコンピュータに認識されない場合があります。優先順位は、装置を接続するメインボード側のコネクタ（プライマリ、セカンダリ）と装置側のジャンパ設定（マスタ、スレイベ、ケーブルセレクト）で決定します。4基の装置の関係は、次のとおりです。

メインボード側	装置	順位	購入時の装置*	増設例
プライマリコネクタ	マスタ	1	HDD	
	スレイベ	2		HDD(2台目)
セカンダリコネクタ	マスタ	3	CD-ROMドライブ	
	スレイベ	4		MOドライブなど

\* 購入時のシステム構成により異なります。



制限

HDDは、CD-ROMドライブ(CD-R/RWドライブ、コンボドライブなど)よりも優先順位の高い設定にしてください。HDDが認識されない可能性があります。

## プライマリコネクタとセカンダリコネクタ

メインボード上のIDEコネクタは、プライマリコネクタとセカンダリコネクタに分けられます。

IDEコネクタの優先順位は、次のとおりです。

- 優先順位:
1. プライマリコネクタ
  2. セカンダリコネクタ

## マスタ・スレイブ・ケーブルセレクト

IDEコネクタに接続するIDEケーブルには、2基の装置を接続することができます。2基の装置には、優先順位を設定します。優先順位の設定は、装置側のジャンプスイッチで行います。

- 優先順位:
1. マスタ
  2. スレイブ

優先順位を設定するには、次の2とおりの方法があります。

- 装置側のジャンプスイッチで、「マスタ」、「スレイブ」を設定します。
- 装置側のジャンプスイッチで、「ケーブルセレクト」を設定します。この場合、接続するIDEケーブルのコネクタの色によって「マスタ」、「スレイブ」が設定されます。

「ケーブルセレクト」設定した装置は、次のとおり設定されます。

黒色のコネクタに接続：マスタとして設定

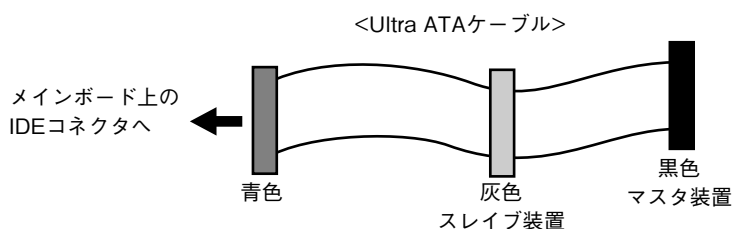
灰色のコネクタに接続：スレイブとして設定

ジャンプスイッチの位置や設定方法は、ドライブ装置のマニュアルを参照してください。

## IDEケーブル

本機のIDEコネクタに接続している2本のIDEケーブルは、「Ultra ATAケーブル」です。

「Ultra ATAケーブル」は、次のように接続します。

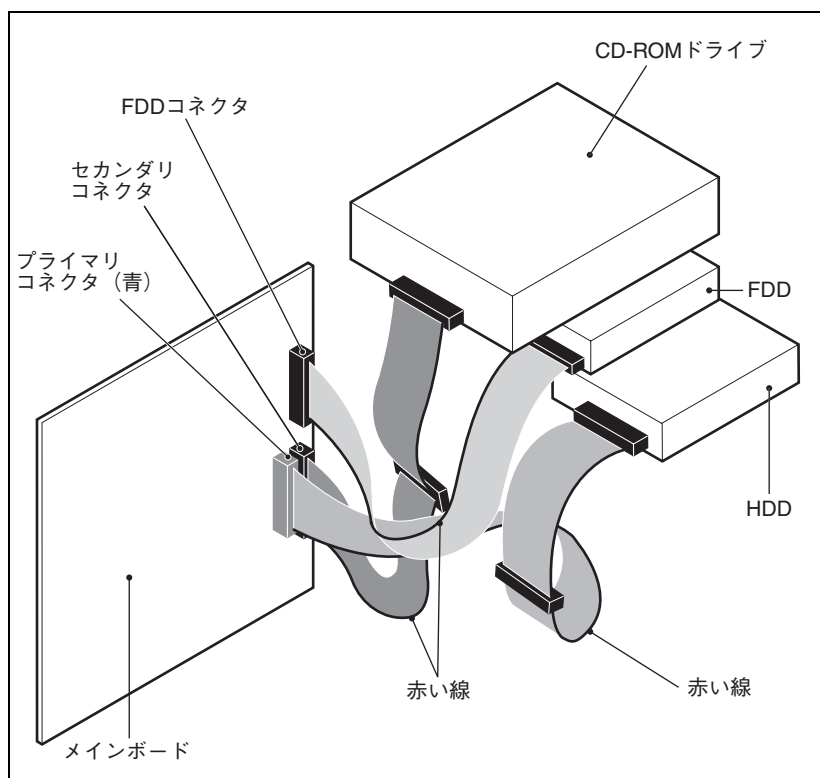




## ▶ ドライブ装置の接続例

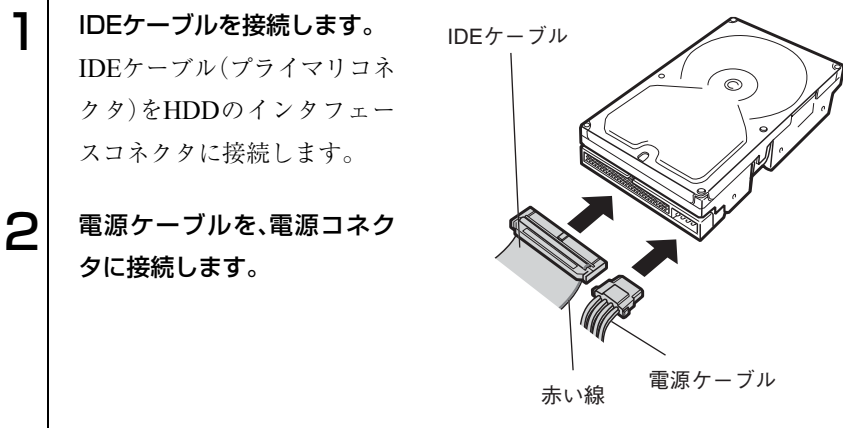
### メインボードとの接続

ドライブ装置の一般的なケーブル接続の方法は、次のとおりです。  
ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。



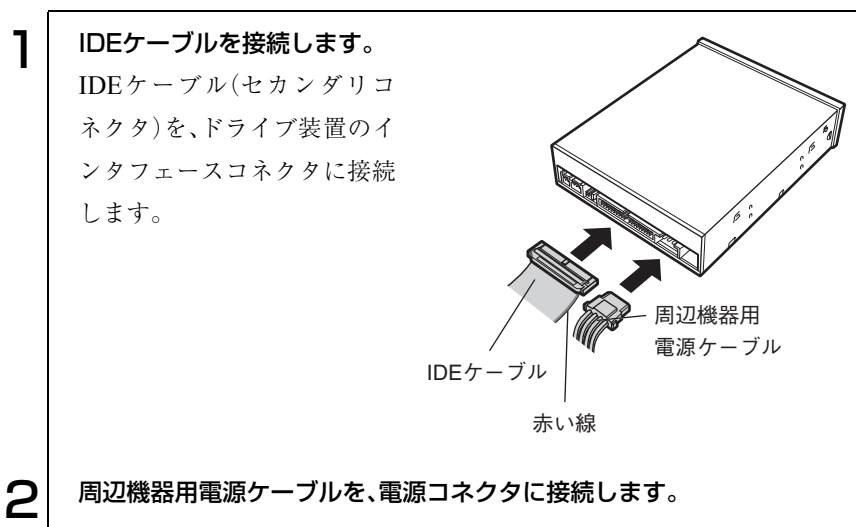
## HDDの接続例

HDDの場合、次のように接続します。



## CD-ROMドライブの接続例

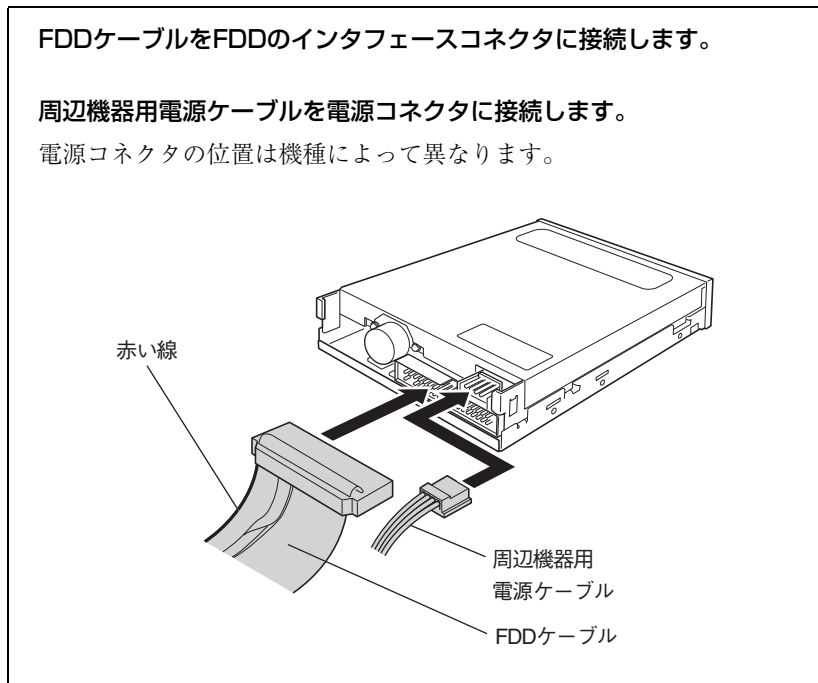
CD-ROMドライブなどの場合、次のとおり接続します。



### 3.5型FDDの接続例

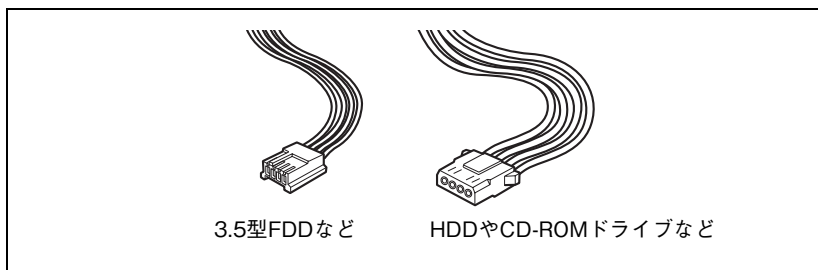
3.5型FDDの場合、次のとおり接続します。

- 1 FDDケーブルをFDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。  
電源コネクタの位置は機種によって異なります。



### 周辺機器用電源ケーブル

電源ユニットには、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルがついています。周辺機器用電源ケーブルには、大小2種類の電源コネクタがいくつか付いています。一般的に大きいコネクタは、HDDやCD-ROMドライブなどに、小さいコネクタは3.5型FDDに使用します。





# BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

# BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



## 参考

### リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.86「リチウム電池の交換」




## 制限

- 「BIOS Setupユーティリティ」で、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値(初期値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.80「BIOSの設定値」

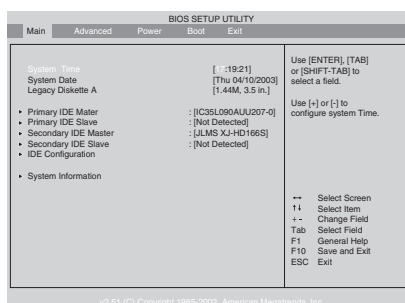
- 「BIOS Setupユーティリティ」には、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」(初期値に戻す)を実行してください。

 p.66「設定値をもとに戻すには」

# BIOS Setupユーティリティの操作

## ▶ BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合は再起動します。
- 2 コンピュータの起動直後、黒い画面の中央にロゴが表示されたら、すぐにキーボードの **Delete** を押します。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。




BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

### 仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入れると、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **F1** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.67 「BIOS Setupユーティリティの終了」

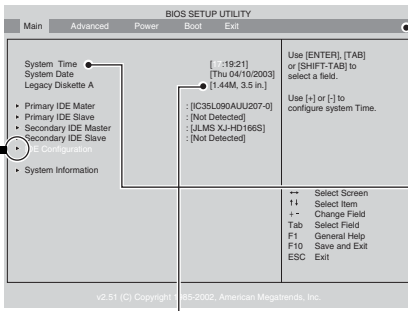
# ▶ BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。  
操作は、次の順番で行います。

- ① 処理メニューを選択 → ② 設定項目を選択 → ③ 設定値を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.69をご覧ください。

<メニュー画面>



① 「処理メニュー」を選択  
→ ← で変更します。  
起動直後は、「Main メニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択  
↑ ↓ で変更します。

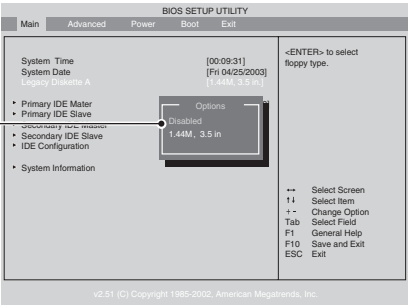
③ 「設定値」を選択

青字表示されていると、設定変更可能です。  
+ / - を押すと値が変わります。  
↓ を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

↓

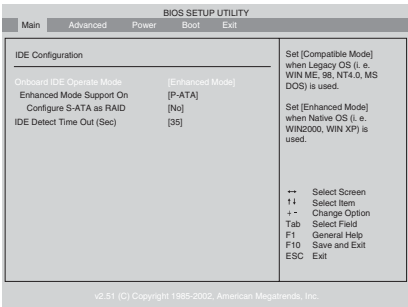
<選択ウィンドウ>

選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、↓ で設定します。



▶ マークの付いている設定項目を選択して ↓ を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。  
Esc を押すと「メニュー画面」に戻ります。



## キー操作

キー	操作できる内容
<b>F1</b>	ヘルプを表示します。
<b>Esc</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更した内容を破棄し、終了するかどうかを確認するメッセージを表示します。</li> <li>・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。</li> </ul>
<b>↑</b> , <b>↓</b>	設定を変更する項目を選択します。
<b>←</b> , <b>→</b>	処理メニューを選択します。
<b>-</b> , <b>+</b>	項目の値を変更します。
<b>↵</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。</li> <li>・選択項目の選択ウィンドウを表示します。</li> <li>・設定値を選択します。</li> </ul>
<b>F5</b>	全設定項目の値を、初期値に変更します。
<b>F10</b>	変更した設定値を保存して終了します。
<b>Page Up</b> , <b>Home</b>	画面の中の最初の項目に移動します。
<b>Page Down</b> , <b>End</b>	画面の中の最後の項目に移動します。

## ▶ 設定値をもとに戻すには

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万が一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

### Load Setup Defaults(初期値に戻す)

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を、BIOSの初期値に変更します。

1  を押す、または「Exit」メニュー画面-「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults	
[OK]	[Cancel]

2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[OK]を選択して  を押しします。  
変更しない場合は[Cancel]を選択して  を押しします。

次のような場合は、Load Setup Defaults を実行したあとに、BIOS の設定値を設定しなおしてください。


- サウンドボードをお使いの場合  
「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」-「Onboard AC'97 Audio」を「Disabled」に設定する。
- ネットワークボードをお使いの場合  
「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」-「Onboard LAN」を「Disabled」に設定する。

## Discard Changes(前回保存した設定値に戻す)

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[OK]	[Cancel]


- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[OK]を選択して  を押します。

## ▶ BIOS Setupユーティリティの終了


「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2とおりの方法があります。

### Exit & Save Changes(変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、「BIOS Setup ユーティリティ」を終了します。

- 1  を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[OK]	[Cancel]

- 2 変更した設定値を保存して終了する場合は[OK]を選択し、 を押します。

## Exit & Discard Changes(変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1  を押す、または [Exit] メニュー画面 - 「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?

[OK] [Cancel]
- 2 変更した設定値を保存せずに終了する場合は [OK] を選択し、 を押します。

# BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setup ユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Main メニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : 省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態、パスワードの設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

## 表の見方

各メニュー画面の設定項目の表では、次のように記載しています。

\* : 表示のみの項目

■ : 項目の初期値

## ▶ Mainメニュー画面

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定	時刻を設定します。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。標準はLegacy Diskette Aに3.5型1.44MB対応FDDが接続されています。 Disabled : FDD未接続 1.44M,3.5in : 3.5型1.44MB対応FDD



Primary IDE Master		IDE装置の仕様を設定します。
Primary IDE Slave	* Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
Secondary IDE Master	* Vendor	IDE装置の型番を表示します。
Secondary IDE Slave	* Size	HDDの容量を表示します。
Third IDE Master	* LBA Mode	LBA(Logical Block Addressing)をサポートしているかどうかを表示します。
Fourth IDE Master (IDE装置の設定)	* Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
※ 表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	* PIO Mode	IDE装置の転送モードを表示します。
	* Async DMA	IDE装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	* Ultra DMA	Ultra DMA対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T(Self Monitoring Analysis and Reporting Technology)をサポートしているかどうかを表示します
	Type	IDE装置の仕様を設定します。 Not Installed : IDE装置を使用しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。
	LBA / Large Mode	LBA(Logical Block Addressing)を使用するかどうかを表示します。 Auto : LBAを使用します。 Disabled : 使用しません。
	Block (Multi-Sector Transfer) Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
	DMA Mode	IDE装置のDMA転送モードを設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5
	SMART Monitoring	初期値[Disabled]のまま使用します。
	32Bit Data Transfer	初期値[Disabled]のまま使用します。

IDE Configuration		IDE 装置の仕様を設定します。
	Onboard IDE Operate Mode	初期値[Enhanced Mode]のまま使用します。
	Enhanced Mode Support On	初期値のまま使用します。
	IDE Detect Time Out (Sec)	ATA/ATAPI 装置検知のタイムアウトの値を設定します。 0/5/10/15/20/25/30/35
System Information		本機の仕様を表示します。
	AMI BIOS	BIOS の情報を表示します。
	* Version	BIOS のバージョンを表示します。
	* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	* ID	BIOS の ID を表示します。
	Processor	本機に搭載されている CPU の情報を表示します。
	* Type	本機に搭載されている CPU のタイプを表示します。
	* Speed	本機に搭載されている CPU の周波数を表示します。
	* Count	本機に搭載されている CPU の数です。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	* Size	本機に搭載されているメモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。

## ▶ Advancedメニュー画面

CPU Configuration	本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。
* Manufacturer	メーカーを表示します。
* Brand String	型番を表示します。
* Frequency	周波数を表示します。
* Ratio Status	CPUクロックの設定を表示します。
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Hyper Threading Technology	ハイパースレディング機能の有効/無効を設定します。Pentium4プロセッサを搭載しているモデルに表示されます。 Enabled : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
Chipset	メインボード上の機能に関する設定をします。
DDR Reference Voltage	メモリの電源電圧を設定します。 Auto : 自動的に最適な電源電圧に設定されます。 2.55V : 2.55Vに設定します。 2.65V : 2.65Vに設定します。
DRAM Frequency	メモリの周波数を設定します。 266Mhz/320Mhz/400Mhz : メモリがサポートしている周波数です。 Auto : 自動的に最適な周波数に設定されます。
Configure DRAM Timing by SPD	DRAM SPDに従うか、または手動でDRAMタイミングパラメータを使用するかどうかを設定します。初期値[Enabled]のまま使用します。
Graphics Aperture Size	初期値[64M]のまま使用します。
Onboard Devices Configuration	メインボード上のデバイスに関する設定を行います。
OnBoard AC'97 Audio (サウンド機能の設定)	メインボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled]に設定します。 Auto : 使用します。 Disabled : 使用しません。
Onboard LAN (ネットワーク機能の設定)	メインボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。ネットワークボード使用時は、[Disabled]に設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled : 使用しません。
OnBoard LAN Boot ROM (リモートブート機能の設定)	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。



	Serial Port1 Address (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
	Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。
	Parallel Port IRQ (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用する IRQ を設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 IRQ7, IRQ5
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。初期値[1.9]のまま使用します。
	ECP Mode DMA Channel (パラレルポートのDMA設定)	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。初期値のまま使用します。
	Parallel Port IRQ (パラレルポートのIRQ信号の設定)	パラレルポートが使用する IRQ を設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 IRQ7, IRQ5
PCIPnP		PCIPnPに関する設定をします。
	Plug And Play O/S	PCI スロットのリソース管理方法を設定します。初期値[No]のまま使用します。
USB Configuration		USB コントローラの設定をします。
	USB Function	初期値[Enabled]のまま使用します。 Enabled : Disabled :

## ▶ Power メニュー画面

パワーマネジメント(省電力)の設定を行います。

Suspend to RAM	スタンバイモードを Suspend to RAMで行うかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
ACPI APIC support	初期値[Enabled]のまま使用します。
Power Up Control(起動方法の設定)	起動する方法や条件を設定します。
Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
Power On By PCI Devices(LANからの起動設定)	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。

## ▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、起動するドライブの順番やパスワードに関する設定を行います。

起動ドライブの初期設定は、FDD、CD-ROMドライブ、HDDの順番です(システムの構成により異なります)。HDDやCD-ROMドライブは、それぞれPM-XXXXXX、SM-XXXXXXのように表示されます(PMはPrimary Master、SMはSecondary Masterの略でXXXXXXには装置の名称が入ります。)




ドライブを選択して  を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して  を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Boot Device Priority	システムを起動するドライブの順番を設定します。	
	1st Boot Device	1 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「1st FLOPPY DRIVE」です。
	2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されている 5.25 型ドライブの型番です。
	3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、接続されている HDD の型番です。
	4th Boot Device <sup>**</sup>	ネットワークから起動する場合に使用します。OnBoard LAN のリモートブート機能を有効にすると表示されます。
Hard Disk Drives	異なる仕様の HDD を 2 台以上装着すると型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。	
	1st Drive 2nd Drive 3rd Drive	
CDROM Drives	2 台以上の CD-ROM ドライブを装着すると、型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。	
	1st Drive 2nd Drive	
Removable Drives	外付けの記憶装置(USB FDD など)を接続すると型番を自動的に検出して表示します。接続した記憶装置を使用するかどうかを設定します。 外付けの記憶装置: 外付け記憶装置を使用します。 Disabled: 外付け記憶装置を使用しません。	
	1st Drive 2nd Drive	
Boot Settings Configuration	システム起動時の設定をします。	
	Bootup Num-Lock	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off: NumLock が押されていない状態にします。 On: NumLock が押された状態にします。

<sup>\*\*</sup>「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」で「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定すると表示されます。



<p>Security</p> <p>*Supervisor Password/User Password</p>	<p>システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。</p> <p>Supervisor Password (管理者用パスワード)と User Password (ユーザーパスワード)が設定されているかどうかを表示します。</p> <p>Installed :パスワードが設定されています。</p> <p>Not Installed :パスワードが設定されていません。</p> <p>管理者用のパスワードを設定すると以下の4項目が表示されます。</p>
<p>Change Supervisor Password (管理者パスワードの設定)</p>	<p>管理者用パスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」やシステム起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>User Access Level</p>	<p>「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。</p> <p>「User Password」(ユーザーパスワード)を入力したユーザーが「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスすることを4段階で制限します。</p> <p>No Access : 「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。</p> <p>View Only : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。</p> <p>Limited : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、「日付」と「時間」のみ変更できます。</p> <p><b>Full Access</b> : 管理者と同一の権利を許可します。ただし、管理者パスワードの変更はできません。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。</p>
<p>Change User Password (ユーザーパスワードの設定)</p>	<p>ユーザーパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Clear User Password</p>	<p>ユーザーパスワードを削除します。</p> <p>を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。</p>
<p>Password Check</p>	<p>パスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。</p> <p>Setup : BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Always : BIOS Setupユーティリティ起動時、システム起動時、省電力モードから復帰時にパスワード入力を要求します。</p>

## ▶ Passwordの設定

システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定を行います。

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時または「BIOS Setup ユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

### 管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

- 1 「Change Supervisor Password」または、「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。  

- 2 パスワードを入力し、 を押します。  
「\*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは6文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。  
同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not Match」というメッセージが表示されます。[OK]が選択された状態で  を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。  

- 4 「Password Installed.」というメッセージが表示されたら、[OK]が選択された状態で  を押します。




- 5 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き写して保管しておくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、「CMOS RAM の初期化(p.89)」を実行します。

### 管理者パスワードの削除


- 1 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:


- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.


[OK]

- 3 「OK」が選択された状態で  を押します。「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。

## ユーザーパスワードの削除

- 1 「Clear User Password」を選択して、 を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password?	
<input type="button" value="[OK]"/>	<input type="button" value="[Cancel]"/>

- 2 [OK]を選択して、 を押します。「User Password」項目の表示が、「Not Installed」に変わります。これで、ユーザーパスワードが削除されます。

## ▶ Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setup ユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

## ▶ BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

### Main メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Legacy Diskette A	Disabled 1.44M 3.5 in	Disabled 1.44M 3.5 in



Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Chipset	Configure DRAM Timing by SPD	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Graphics Aperture Size	4MB 8MB 16MB 32MB 64MB 128MB 256MB		4MB 8MB 16MB 32MB 64MB 128MB 256MB	
OnBoard Devices Configuration	Onboard AC'97 Audio	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	OnBoard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	OnBoard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port1 Address	Disabled 3F8/IRQ4 3E8/IRQ4	2F8/IRQ3 2E8/IRQ3	Disabled 3F8/IRQ4 3E8/IRQ4	2F8/IRQ3 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled 378 278 3BC		Disabled 378 278 3BC	
	Parallel Port Mode	Normal EPP	Bi-Directional ECP	Normal EPP	Bi-Directional ECP
	Parallel Port IRQ	IRQ7	IRQ5	IRQ7	IRQ5
PCI PnP	Plug And Play O/S	No	Yes	No	Yes
USB Configuration	USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
ACPI APIC support		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Power Up Control	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	(	)	Disabled	(	)
	2nd Boot Device	Disabled	(	)	Disabled	(	)
	3rd Boot Device	Disabled	(	)	Disabled	(	)
Boot Settings Configuration	Bootup Num-Lock	Off	On		Off	On	

# 付 録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、仕様などについて説明します。

# お手入れ

## ▶ 本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

## ▶ マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

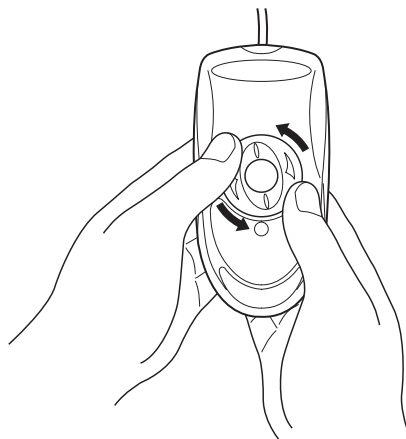


警告

- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

- 1** マウス底面のボールフレームを外します。  
ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2** マウスボールを取り出します。  
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3** マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
- マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
  - クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4** マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5** ボールフレームをもとどおりに取り付けます。  
右回りに回してマウス本体に装着します。



制限

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

# リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、時間や設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は次のとおりです。

- CR2032(または同等品)




- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

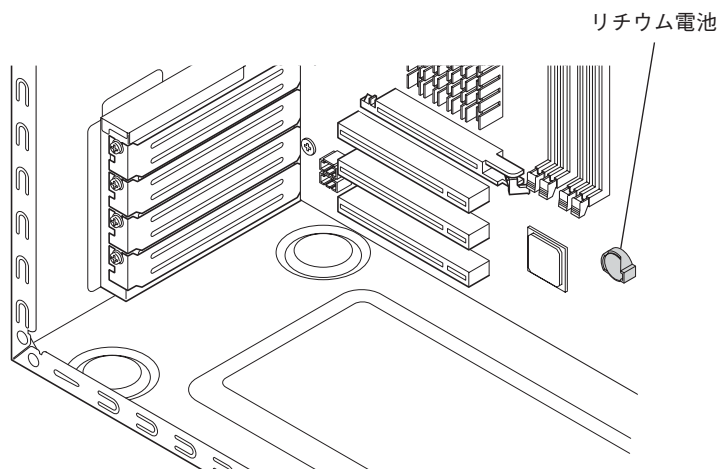
リチウム電池の交換は次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

**1** 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。


 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

**2** リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池はメインボード上の次の位置にあります。

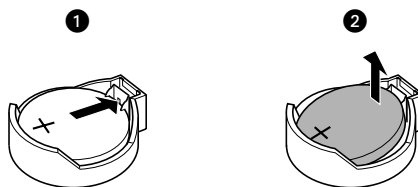


**3** 必要に応じて、作業の妨げになる拡張ボードを取り外します。

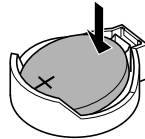
 p.41「拡張ボードの取り付け・取り外し」

**4** リチウム電池を抜きます。


- ① 電池ホルダの留め金を押します。
- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




- 5** 新しいリチウム電池を取り付けます。  
刻印面(+側)が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。  
取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



- 6** 手順3で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.41「拡張ボードの取り付け・取り外し」


- 7** 本体カバーを取り付けます。

 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8** コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

- 9** コンピュータの電源を入れます。

- 10** ログ画面表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、**F1** を押して、「BIOS Setup ユーティリティ」を実行します。

 p.63「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 11** 「Exit」メニュー画面-「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。

 p.66「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」

- 12** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

- 13** 「Exit」メニュー画面-「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。



# CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常はCMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れていたり、設定を誤ったりしてコンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。










- CMOS RAMの初期化は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本製品の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.80「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化は、次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 リチウム電池を抜きます。  
 p.86「リチウム電池の交換」
- 3 約1分間放置します。
- 4 リチウム電池を取り付けます。  
 p.86「リチウム電池の交換」
- 5 本体カバーを取り付けます。  
 p.30「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。
- 8 ログ画面表示後、黒い画面の下部に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、 を押して、「BIOS Setup ユーティリティ」を実行します。  
 p.63「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 9 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。  
 p.66「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」
- 10 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 11 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

# コンピュータ内部のケーブル接続

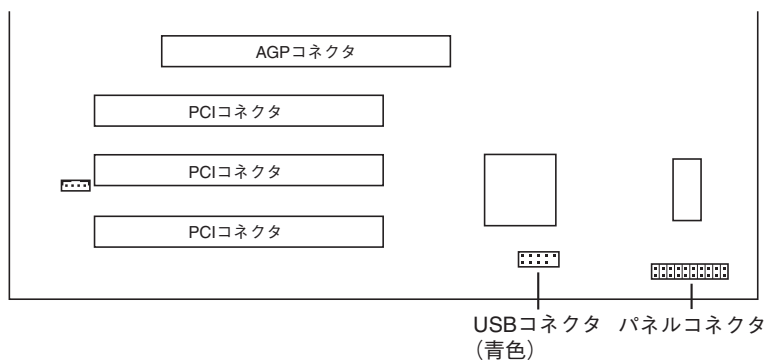
コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤ってこれらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

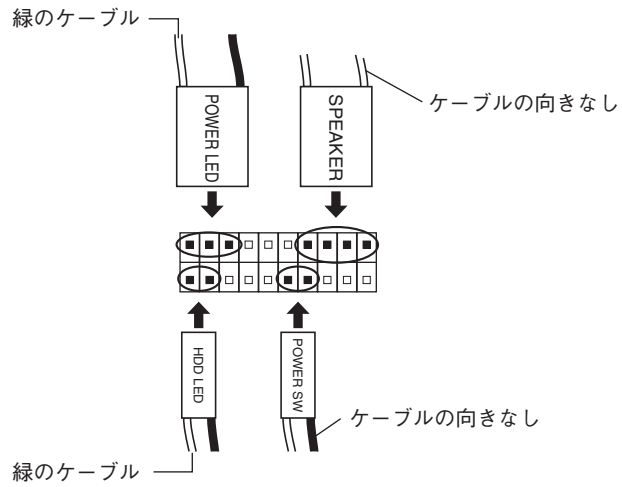
## コネクタ位置(メインボード上)

各種コネクタのメインボード上の位置は次のとおりです。



## パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。



## USB2.0コネクタ

前面USB2.0コネクタの内部ケーブルをコネクタの向きに合わせて接続します。

# 警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処方法
No keyboard detected	キーボードが検出できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。
No floppy disk detected	FDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
No IDE hard disk detected	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU temperature too high	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。
CPU fan failed	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU voltage out of range	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

# 機能仕様一覧

CPU		インテルPentium 4プロセッサ	インテルCeleron Dプロセッサ
メモリ	ROM	BIOS 他512KB EEPROM	
	メインメモリ	DDR400 SDRAM PC3200 DIMM*1	
	容量	最大3GBまで増設可能	
	ビデオメモリ	メインメモリの一部を使用(最大64MB)	
ビデオコントローラ		インテル865G	
サウンドコントローラ		AC'97 CODEC(切り離し可能)	
キーボード		日本語対応109キーボード	
マウス		ホイール付きPS/2マウス	
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵	
	内蔵HDD	IDE HDD 1基内蔵 Ultra ATA/100対応	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速	
インタフェース	パラレル	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアル	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGA	1(アナログRGB ミニD-SUB15ピン)	
	キーボード	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	マウス	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンド	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	ネットワーク	1(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識)	
	USB	6(USB2.0 前面×2、背面×4)	
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで1ベイ使用済み)	
	5.25型ドライブベイ	2(CD-ROMドライブで1ベイ使用済み)	
	HDDベイ	3(HDDで1ベイ使用済み)	
外部拡張スロット		AGP対応スロット*2×1(ボード長312mmまで装着可能) PCI対応スロット×3(ボード長312mmまで装着可能)	
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)	
電源容量		250W	
入力電圧		AC 100 V ± 10 % (50/60 Hz)	
温湿度条件		温度:10~35℃ 湿度:20~80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		本体:約179(幅)×399(奥行)×368(高さ)mm(突起部除く)	
重量		本体:約11Kg(本体のみ)	
消費電力	最大消費電力	385 W	
	通常消費電力	95 W	

\*1 インテルCeleron Dプロセッサでの動作はDDR333(PC2700)になります。

\*2 本機では、AGP2.0(1.5V仕様)およびAGP3.0(0.8V仕様)対応ボードのみ装着可能です。

## 使用限定について

---

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

---

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波障害について

---

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 高調波ガイドライン適合品

---

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

## ご注意

---

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## 商標について

---

インテル、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。





大豆油インキを  
使用しています。



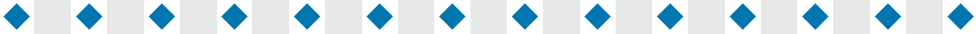
このユーザーズマニュアルは  
古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77331000 04.09-00(EP)



**epsondirect.jp**



**EPSON DIRECT CORPORATION**